

医学教育分野別評価基準日本版 V2.11 に基づく

滋賀医科大学医学部医学科

自己点検評価報告書

平成 29(2017)年度

目 次

巻頭言	1
略語・用語一覧	2
1. 使命と学修成果	7
2. 教育プログラム	45
3. 学生の評価	99
4. 学生	117
5. 教員	149
6. 教育資源	169
7. プログラム評価	207
8. 統轄および管理運営	243
9. 継続的改良	265
あとがき	283

巻頭言

滋賀医科大学は昭和 49 年の開学以来、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく」を標榜し、優れた医療人の育成に努めてきました。医学部医学科は「地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること」を理念に掲げ、教育理念として「豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人を養成する」ことを謳っています。こうした理念に基づいた教育を達成するために、本学では（１）グローバルスタンダードの臨床能力を養う、（２）医学・医療の進歩に対応し、さらに貢献できる能力を養う、ことを教育目標としています。

本学では、平成 28 年からアウトカム基盤型の医学教育をめざし、カリキュラムおよび教育内容について点検を行うとともに学内での議論を深め、改革に取り組んできました。その中で、アウトカムについては 7 つの大項目を設定し、講義実習、特に臨床実習を中心としたカリキュラムの改編を行いました。本学が進める全人的医療、地域医療への貢献を重視しつつ、特に、国際水準の医学教育を目指して教育改革にあたっています。

現在、全学を挙げて教育改革に取り組んでいますが、さらなる改善と教育のレベルアップのためには、本学の教育内容全般について外部評価を受けることが不可欠であることから、医学教育分野別評価を受審する方針を平成 28 年度に決定しました。受審のために、医学科教授会構成員全員と准教授・講師、ならびに関係の職員が 9 つの領域を担当するワーキンググループを構成し、領域ごとに詳細な点検・分析と討論を行って、その結果をこの「自己点検評価報告書」にまとめました。自己点検にあたっては、「医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.11」（世界医学教育連盟(WFME)グローバルスタンダード 2015 年版準拠）に基づき、各項目・水準について、A. 基本的水準/質的向上のための水準に関する情報、B. 基本的水準/質的向上のための水準に関する現状分析と自己評価、C. 現状への対応、D. 改善に向けた計画、の 4 項目を詳細に検討し、それらの結果を本報告書に記載してあります。

今回、医学教育分野別評価受審のための準備作業を進める過程で、本学の教職員が現行の医学教育の内容をつぶさに精査・分析し、さまざまな課題を認識できたことは大変有意義でありました。本受審を新たな医学教育の出発点と位置づけ、本学の全教職員が一致協力して、より高い水準の医学教育を達成し、真に国際水準の能力を備えた医療人を育成すべく、引き続き努力を重ねる覚悟を新たにしています。

本受審によって、滋賀医科大学の教育体制と教育内容が改善され、本学の医学教育の質がさらに向上することを心から願っています。

平成 29 年 8 月

国立大学法人滋賀医科大学 学長
塩 田 浩 平

略語・用語一覧

※自己点検評価報告書、カリキュラム表、教育要項等で使用されている言葉の解説

CBT	Computer Based Testing：コンピュータを用いた客観的試験
DMAT	Disaster Medical Assistance Team： 災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム
DOPS	direct observation of procedural skills： 手技を直接観察して行う評価（パフォーマンス評価）
e-Learning	インターネットを利用した学習形態
FD・SD	Faculty Development：教員の教育能力向上のための取組 Staff Development：職員に必要な知識・技能の習得、能力資質向上のための取組
GIO	General Instructive Objective：概念的目標、一般目標
GPA	Grade Point Average： 成績評価を数値に置き換え、その平均点で評価する方法
ICT	Information and Communication Technology： 情報処理や通信に関する技術
IR	Institutional Research： 情報を収集・蓄積・分析し、分析結果の提供を通じて、大学の自己評価、意思決定に寄与する活動
JCHO	Japan Community Health care Organization： 独立行政法人地域医療機能推進機構
MCQ	Multiple Choice Question：多肢選択式問題
Mini-CEX	Mini-Clinical Evaluation Exercise： 手技を直接観察して行う評価（パフォーマンス評価）
NHO	National Hospital Organization：独立行政法人国立病院機構
OSCE (Post-CC OSCE)	Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験 (Post-CC OSCE:臨床実習終了後に実施する客観的臨床能力試験)
PBL	Problem-Based Learning：課題解決型学習
SBO	Specific Behavioral Objective：行動目標
SUMS	本学の名称である Shiga University of Medical Science の頭文字をとって、平成 22 年度、第 2 期中期目標・計画の目標として定められた。 Society-based Education：地域基盤型教育・研修 Unique Research：独創的研究 Mindful Medical Service：充実した医療 Strategic, activated Service：戦略的組織活性化
VPN (SSL-VPN)	Virtual Private Network：仮想専用線（インターネット通信網を使用し、事実上、専用線と同じ機能を持つ回線） (SSL-VPN:暗号化技術(SSL)を利用した仮想専用線)

WG	Working Group：特定の事項についての検討や作業を行うチーム
3C（三大使命）	第3期中期目標期間に、全学を挙げて教育改革、組織改革、機能強化に取り組むためのキーワードとして定められた。 Creation：優れた医療人の育成と新しい医学・看護学・医療の創造 Challenge：優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦 Contribution：医学・看護学・医療を通じた社会貢献
アウトカム	学生が卒業時まで身に付けておくべき知識・技能・態度に関する能力
アドバイザー制度	助教以上の教員が担当学生に対して助言や指導を行う。新入生を対象とする制度と5年生以上を対象とした後期アドバイザー制度がある。
医療人育成教育研究センター	教育に関する総合的な研究、開発を行うとともに医療人の育成に寄与することを目的とする学内教育研究組織
学生カルテ	診療参加型臨床実習で、指導医師の監督のもとに学生が診察内容を記録するカルテ
学生生活支援部門	医療人育成教育研究センターの1部門 厚生補導、経済支援、就職支援、学生相談に関することの審議を担当する。厚生補導委員会に相当する。
学生ワクチンプログラム	本学の感染症対策の一環として、臨床実習開始時までに必要な検査の受検とワクチンの接種について定めた行程表
学外・学内アドバントコース	各診療科等をローテートする第5学年の臨床実習後、第6学年で実施する臨床実習、学生が選択した医療機関や診療科で、学外6週間、学内6週間の臨床実習を行う。
学部教育部門	医療人育成教育研究センターの1部門 医学部の教育システム及び教育に係るカリキュラムの研究・開発等に関することの審議を担当する。教務委員会に相当する。
環びわ湖大学・地域コンソーシアム	滋賀県内にある13大学・短期大学と自治体・経済団体が相互に連携・協働し、個性輝く存在感のある大学づくりを支援するとともに、大学との連携を通じた地域社会の発展に貢献することを目的とした組織
キャンパスマスタープラン	学内の施設やインフラなどの設置、更新、改修計画を定めたもの。
教育医長	診療科長の命を受け、当該科に係る学生の臨床実習に関する業務を担当する。
教学活動評価委員会	医学教育・学習活動等の状況に係る点検・評価に必要な事項を審議するための委員会
教育研究評議会	学長が主宰し、教育・研究に関する重要事項を審議する。
クリニカルワークシップWG	学部教育部門会議の専門委員会として設置 学生の臨床実習に関する事項、学内の他部署や関連実習施設との連携および調整に関する事項を担当する。

研究医養成 コース	基礎医学研究医不足の危機的な状況に対応するため、学生の主体的な探究活動をサポートしながら、研究活動の場を提供する目的で平成 23 年度に設置された。平成 24 年度には、それを発展させた「産学協働支援による学生主体の研究医養成」が文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業として選定され、平成 28 年度に事業終了後も、大学独自で継承している。
献体受入式	解剖実習等のためご献体いただいたご遺体の受け入れを、ご遺族の立会いのもと、解剖実習を行う第 2 学年学生および教職員が参列し行う式
自主研修	学生自身が医学に関する研究活動に触れ、実際に実験を体験することを目的とした第 4 学年に配当の授業科目。平成 29 年度以降の新カリキュラムでは「研究室配属」（第 3 学年配当）として科目名と配当学年を変更している。
滋賀県枠	推薦入試で、滋賀県の高校出身者または本人あるいは親族が滋賀県に住所を有する者を対象とした枠
しが医工連携ものづくり産学官連携拠点	文部科学省と経済産業省の施策を有機的に組み合わせた総合的・集中的な支援を実施するための連携拠点として平成 21 年に選定されたもの。 滋賀県でこれまで行ってきた医工連携への取組をより一層加速させ、「質の高い医療提供」と「活力あるものづくり産業の創出」が絶え間なく繰り広げられる「医工連携ものづくりクラスター」の形成を目指したもので、本学、立命館大学、長浜バイオ大学、滋賀県等において「しが医工連携ものづくり産学連携拠点」（拠点推進本部長：滋賀県知事、副本部長：しが医工連携ものづくりネットワーク代表、本学学長、立命館大学学長）を形成し、滋賀県の外郭団体である「滋賀県産業支援プラザ」が中心となり「しが医工連携ものづくりネットワーク（医療分野への進出に意欲的で多様な分野の企業で構成 H23 年度：94 社 H28 年度 150 社）」と医工連携の取組を行った。
スキルズラボ	シミュレーター等を使用した技能訓練を行う施設
チューデントドクター	Student Doctor：診療参加型臨床実習を行うに十分な知識、技術、態度を身に付けていると認定された学生に対して付与する資格
スロースターター	第 4 学年で実施した CBT 成績が下位の学生 第 5 学年と第 6 学年で、各 30 名程度を対象とし、後期アドバイザーを配置している。
全人的医療体験学習	疾病を有する一個人としての患者に適切に対応できる医師となるために、地域の診療所で訪問診療を受療中の患者及びその家族を継続的に訪問し、心理面、経済面、家族社会背景など、患者をとりまく状況を幅広く捉えながらケアを行う全人的医療について学ぶことを目的とした授業科目（選択科目） 平成 17 年度 文部科学省の地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラムに採択された「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」を継承している。

地域医療教育研究拠点	滋賀県における医療活動を通して、地域医療を担う医師に対する教育及び地域医療を担う医師の養成と確保に関する研究を推進するため平成 26 年度に設置、活動拠点を NHO 東近江総合医療センターおよび JCHO 滋賀病院に置いている。
地域「里親」学生支援事業（里親制度）	地域医療の担い手を育成することを目的とし、従来の学生支援と連携を図りながら、地域で活躍中の卒業生を“里親”、地域住民の方を“プチ里親”とする地域参加型の学生支援の取組 平成 19 年度に文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された『地域「里親」による医学生支援プログラム』を継承している。
地域医療枠	推薦入試における「滋賀県枠」、第 2 年次後期学士編入学試験における「地域枠（近畿圏等を含む）」および「滋賀県医師養成奨学金貸与者」を含めた総称
地域枠（近畿圏等を含む）	第 2 年次後期学士編入学試験で近畿圏（滋賀県を含む）および滋賀県に隣接する県の高校卒業者を対象とした枠、募集人員 17 名のうち 5 名である。
マルチメディアセンター	図書館と一体となっており、電子情報へのアクセスを行う中枢部
メディカルミュージアム	本学が保有する模型や標本など基礎医学教育のための教育資源を集約し、有効利用する目的で平成 25 年度に設置 学内だけではなく広く近隣の医療・教育機関（小学校、中学校、高等学校を含む）等が利用することも目的としている。
良き医療人を育てる Sums システム	医学科履修要項・講義概要を指す。 医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける各授業科目の位置づけや、本学アウトカムに対する各授業科目の位置づけを示している。